

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野））
総括研究報告書

発達障害診療専門拠点機関の機能の整備と安定的な運営ガイドラインの作成のための研究

研究代表者 加藤 進昌 公益財団法人 神経研究所 所長

研究要旨

発達障害が社会に認知されるとともに行政への相談や医療機関への受診者が急増している一方、対応できる人材の不足と包括的な医療システムの未整備が喫緊の課題となっている。過去の厚労科研で提言された「各地域の実状に合わせた医療システム」を実装するために、本研究では児童・思春期の拠点機関を北海道大学、成人期の拠点機関を神経研究所附属晴和病院、拠点統括を昭和大学発達障害医療研究所としてモデルを構築し全国化を見据えた運営ガイドラインの作成を目的とする。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

太田 晴久・昭和大学発達障害医療研究所 講師

齊藤 卓弥・北海道大学医学研究院児童思春期精神医学分野 教授

際の運営ガイドラインを作成する意味は大きい。なお、児童思春期から成人期への診療移行・引継ぎも大きな課題であり、昭和大学発達障害医療研究所では対象患者に中高校生を含めることも視野に入れている。当事者の生活支援拠点としてのグループホームの利用、全国化に向けて診療報酬改訂への提言も必要と思われる。同時に、海外での知見も参考にし、運用の成果を海外に発信していく。

A．研究目的

（１）児童精神科医の不足は全国に共通する課題であり、診療待ち時間の短縮は児童の発達を考えると緊急性が高い。北海道大学には専門医師養成を目的に児童思春期精神医学分野が開設され、「さっぽろ子ども心の診療ネットワーク事業」として札幌市の中核的医療機関の役割を担っている。札幌市全域をカバーする児童精神科医療の連携とレベルアップを目的とした先駆的な試みであり、行政のバックアップのもとで相談・紹介と逆紹介を円滑に行う「コンシェルジュ事業」がスタートしている。全国の実状をアンケート調査した上で、児童思春期精神科医療の札幌での拠点を実際に運用し、多職種・機関が連携した運営ガイドラインを作成する。

（２）昭和大学発達障害医療研究所と晴和病院では、全国に先駆けて専門外来とともに自閉スペクトラム症(ASD)に特化したデイケアを開設した。10年余で計6,000名を越える患者を受け入れており、標準ショートケアプログラムはすでに出版されている。このような当事者の生活支援・社会参加を目指す事業は他に例を見ない。本研究ではこの実績をもとに、
1) 拠点機関に必要な機能について調査検討を行う。
2) 東京都における拠点モデルを晴和病院に構築する。
3) 支援研究会の学会化と研修会や出張講義を通して、発達障害診療の可能な医療機関を増やし、モデルの全国化を図る。

発達障害診療拠点医療機関の整備にあたっては地域の実状を考慮する必要がある。その意味で児童と成人の領域でそれぞれ実績があり、かつ背景の異なる札幌市（地方中核都市）と東京都（首都圏）が実

B．研究方法

東京都精神障害者共同ホーム連絡会の協力を得て、グループホームにおける発達障害事例の実数および実態の調査を行う（配布数71 / 回答期待数60）。事例があれば生活支援手法の内容検討を行う。晴和病院におけるひきこもり事例の調査を訪問して行う。ASD以外に、学生・就労者・引きこもり・ADHD向けのプログラムの拡充も図る。（加藤進昌および晴和病院研究協力者）

家族のニーズ調査を昭和大学・晴和病院利用当事者の家族を対象に行う（500家族、期待回収率50%）。家族が望むことを把握し、東京都拠点病院モデル（晴和病院）の設計に生かす。（昭和大学・晴和病院研究協力者）

（倫理面への配慮）

それぞれの組織で倫理委員会から承認を得る。

C．研究結果

医療、行政に対するアンケート調査では多くの機関（医療207機関、行政87機関）より回答を得た。現状において既に果たされている機能と拠点機関に望む機能との比較を行った。外来治療機能においては、「専門的なデイケア・ショートケア機能」「家族支援」の面でニーズに応えられていなかった。連携機能においては、「児童精神科」「ひきこもり支援センター」との連携がニーズの高さと現状とのギャップがあった。その他、「支援者の育成・教育機会（専門研修会・ショートケアプログラム見学・外来陪席など）」が拠点機関に必要な機能としてニーズが高いが現状では受け入れられていなかった。

グループホームに対する調査は東京都精神障害共同ホーム連絡会を通じてアンケートを実施した（配布数72）。現在結果を解析中であるが、当該連絡会率

下のグループホームでは、発達障害者への関心は高くない印象であった。プログラム拡充への取り組みについては、平成30年度にADHD専門プログラム（晴和病院：総計12回、延べ参加者数207名、昭和大学：12回1クール）のプログラムを6回実施、延べ参加者数72名）を実施した。発達障害の家族会（晴和病院：2回、延べ56名、昭和大学3回、延べ120名）も開催した。また、発達障害の引きこもりの実態を明らかにするため、晴和病院の発達外来全例のカルテ調査を完了した。現在、引きこもりの有無について調査をしている。また、思春期から成人期へ移行例の実態についてもカルテ調査で解析中である。

成人発達障害支援研究会は10月に実施された札幌大会において学会化（「成人発達障害支援学会」）を達成し、200名以上の参加者があった。分科会では専門デイケアで実施するASD専門プログラムの研修会を実施した。研修会は参加者の満足度が高く、発達障害診療に関する支援水準の向上に寄与するものと思われる。学会化により、さらなる発達障害診療ネットワークの強化、拠点機関モデルの全国化に向けた基盤を構築した。

児童精神科領域では、全国の諸自治体、イギリス、韓国、シンガポールなどの諸外国の聞き取りから、待機児童増加、ネットワーク・システムの欠如など共有の問題を抱えていることが明らかになった。一方で対策への取り組みは地域ごとに異なっており、待機児童を減らすことができた地域ではサービスへのアクセスに何らかの絞り込みを行っていたが、それが必ずしもユーザに対しての満足につながっていないことも明らかになった。ネットワークへのニーズまたそれを支える地域の資源にも地域差がありガイドライン作成の際に画一的なガイドラインではなく地域の現状に合ったフレキシブルなガイドラインが求められていることが明確になった。

D. 考察

本研究では、晴和病院を東京都拠点病院モデルとして、発達障害者の包括的支援システムの構築を目指す。現在展開している大学生グループ、就労ADHDグループ、就活支援プログラムを拡充して発達障害者の自立支援を目指す。民間の就労移行支援施設ともネットワークを作り、連携を具体化していく。家族に対しても「家族のつどい」を開催して家族同士が助け合える家族会組織を目指す。今後はグループホームのより詳細な実態調査のため、回収したアンケートを解析し、追加のヒアリング調査を行い（ヒアリング調査目標数：5例）、発達障害者に求められる生活支援の内容検討を行い、包括的支援システムの中でのグループホームの役割を明らかにしていく。

発達障害診療専門拠点機関に必要な機能について、全国の医療機関（697機関）および行政（精神保健福祉センター：69機関、発達障害者支援センター：94機関）に対してアンケート調査を行なった。回答数は医療機関では207機関、行政機関では87機関であった。アンケート調査で明らかとなった事柄を踏まえ、ガイドラインを作成していく必要がある。医療機関に対するアンケート調査では64%が関東地方からの回答であり偏りがみられた。拠点機関に望まれる機能は地域の特性により異なる可能性もあり、より全国的にアンケートを配布・回収する必要がある。また、よりニーズに合った支援を提供するため、プログラムの拡充（就労準備プログラム、一人暮らし調理プログラム、家族プログラム等：すでに実施中）を行

う必要がある。これらの情報を基にしてガイドライン作成のための検討会議を令和元年8月に実施していく予定である。

拠点モデルの全国化を図るため、平成30年10月に札幌にて成人発達障害支援研究会を開催し、学会化を目指した。研修会や発達障害支援を実施している機関のホームページにおける情報開示の準備を進める。発達障害支援学会を令和元年10月に名古屋で開催する予定であり、全国化のための基盤としていく。

児童思春期の発達障害の診断・治療における問題点を1年目に明確にし、その成果に基づいて拠点機関として求められる機能について2年目には具体的な検討を行い、ガイドラインを作成する予定である。

E. 結論

晴和病院に東京都拠点モデルを構築する。相談（家族・法律など）受付機能とともに、デイケアと一体化したグループホームの設置を目指す。ハードウェアが間に合わなければ既存のグループホームとの連携も目指す。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Doi H, Fujisawa TX, Iwanaga R, Matsuzaki J, Kawasaki C, Tochigi M, Sasaki T, Kato N, Shinohara K. Association between single nucleotide polymorphisms in estrogen receptor 1/2 genes and symptomatic severity of autism spectrum disorder. *Research in Developmental Disabilities*, [Epub ahead of print] 2018

2) Itahashi T, Mimura M, Hasegawa S, Tani M, Kato N, Hashimoto R. Aberrant cerebellar-default mode functional connectivity underlying auditory verbal hallucinations in schizophrenia revealed by multi-voxel pattern analysis of resting-state functional connectivity MRI data. *Schizophrenia Research*, 197:607-608, 2018

3) Yamagata B, Itahashi T, Nakamura M, Mimura M, Hashimoto R, Kato N, Aoki Y. White matter endophenotypes and correlates for the clinical diagnosis of autism spectrum disorder. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*, 13(7): 765-773, 2018

4) Yamashita M, Yoshihara Y, Hashimoto R, Yahata N, Ichikawa N, Sakai Y, Yamada T, Matsukawa N, Okada G, Tanaka SC, Kasai K, Kato N, Okamoto Y, Seymour B, Takahashi H, Kawato M, Imazu H. A prediction model of working memory across health and psychiatric disease using whole-brain functional connectivity. *eLIFE*, e38844, 2018

5) 加藤進昌. 大人の発達障害とは 診断の混乱を克服するために. *保健の科学* 60:45-49, 2018

6) 金井智恵子, 加藤進昌. 第12章 成人期の発達障害 ASDの最近の研究と臨床報告について. *発達障害の早期発見と支援へつなげるアプローチ* 177-193, 2018

7) 加藤進昌. 発達障害. *ドクターサロン* 62(5): 37-41, 2018

8) 加藤進昌. 国際自閉症カンファランス東京201

7の開催・発達障害白書2019年版 164,2018

9)加藤進昌・英語教育と発達障害・英語教育 67 (13):50-51, 2019

2. 学会発表

1)加藤進昌・成人期の発達障害者支援 ~支援は発達障害を知ってから始まる~ (株)Eパートナー社内研修会, 東京, 2018/6/8

3)加藤進昌・大人の発達障害への理解と対応 ~特性を知り、良いところを伸ばす~ . 消防大学校幹部科講義, 東京, 2018/6/25

4)加藤進昌・成人の発達障害への理解とサポート 専門外来とデイケアでの10年をふりかえって . 福井県医師会産業医研修会, 福井, 2018/7/1

5)加藤進昌・大人の発達障害への理解・消防大学校幹部科講義, 東京, 2018/8/31

6)加藤進昌・大人の発達障害外来とデイケア ~10年の経験からわかってきたこと~ . 医療法人栄仁会宇治おうばく病院 成人発達障害研修会, 京都, 2018/9/7

7)加藤進昌・「大人の発達障害」~その実像と対応~ . (株)Eパートナー企画セミナー, 東京, 2018/10/12

8)加藤進昌・発達障害がある人への成人期デイケアの取り組みと就労について . 平成30年度広島県発達障害児・者診療医養成研修会, 広島, 2018/10/14

9)加藤進昌・発達障害について . 新宿区高齢者総合相談センター研修会, 東京, 2018/10/22

10)加藤進昌・成人発達障害者支援について(教育講演) . 第6回成人発達障害支援研究会, 札幌, 2018/10/27

11)加藤進昌・大人の発達障害への理解 . 消防大学校幹部科講義, 東京, 2018/10/29

12)加藤進昌・成人の発達障害と障害者歯科 . 第3京, 2019/3/2

2)加藤進昌・障害の理解とコミュニケーション~大人の発達障害~ . 世田谷区福祉人材育成・研修センター 平成30年度多職種で学ぶ対人援助技術研修, 東京, 2019/3/11

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
該当なし

2. 実用新案登録
該当なし

3. その他
該当なし

5回日本障害者歯科学会総会, 東京, 2018/11/17

13)加藤進昌・大人の発達障害の現状と課題 . 日本科学技術ジャーナリスト会議 2018年11月例会, 東京, 2018/11/29

14)加藤進昌・大人の発達障害への理解 . 消防大学校幹部科講義, 東京, 2019/1/11

15)加藤進昌・発達障害と共に、どのように生きてゆくか . 成田市ことばと心を育む親の会講演会, 千葉, 2019/1/12

16)加藤進昌・発達障害を抱えている、もしくは発達障害がありそうな親への支援について . 「新生児・妊産婦訪問指導事業」における訪問指導担当者研修会, 東京, 2019/1/21

17)加藤進昌・大人の発達障害 特性の理解と生活支援 . 大和市健康福祉部障がい福祉課こころの健康講座, 神奈川, 2019/2/15

18)加藤進昌・大人の発達障害 ~新しい精神科医療の可能性~ . (一社)東京精神神経科診療所協会2月例会兼第48回精神科外来薬物療法研究会, 東京, 2019/2/16

19)加藤進昌・発達障害の生物学的背景 . 平成30年度東京都発達障害者支援体制整備推進事業~医療従事者向け講習会~, 東京, 2019/2/17

20)加藤進昌・発達障害はこまでわかった ~引きこもりとの接点を求めて~ . 明治安田こころの健康財団集中講座1, 東京, 2019/2/23

21)加藤進昌・発達障害の診断と治療的アプローチ ~障害者から納税へ~ . 明治安田こころの健康財団集中講座2, 東京, 2019/2/24

22)加藤進昌・アスペルガー症候群の臨床と脳画像研究 ~発達障害の病態解明を目指して~ (基調講演) . AMED 平成30年度 脳とこころの研究 第四回公開シンポジウム「脳とこころの発達と成長」, 東